

平成 19 年第 1 回定例会で一般質問 2007 年 2 月 21 日（水）

21, 2007 00:11

公明党の嶋中貴志です。議長のお許しをいただきましたので、一般質問をさせていただきます。

初めに、安全安心対策についてお伺いいたします。

近い将来に発生することが確実視されている宮城県沖地震などの災害に備えることは当然として、日常的な安全・安心対策である街灯、交通安全の問題は、市民の皆様が肌で実感できる問題ではないでしょうか。地域の懇談会を開きお話を聞くと「毎日の通勤帰りのあの道は暗くて怖い。」「通学路の交差点を渡る時、小学校低学年の保護者の方や、高齢者の方から歩行者用信号機をもう少し長くしてほしい。また、歩行者用信号機が青のときは車が来ないように。」等々、様々なご意見を頂戴いたします。大事なお意見だと思い交通安全について調べてみますと、第 8 次仙台市交通安全計画がありました。人命尊重の理念に基づき、究極的には、交通事故のない社会を目指す。目標として安全な道路交通の実現を目指し、年間の 24 時間死者数を 30 人以下にするとありました。この目標はおかしいのではと疑念がわきます。目標たるもの人命尊重の理念というならば「0」であるべきではないかということです。一人ひとりの交通安全に対する心がけは当然として、多くの市民が感じている交通安全施設等の整備は責務と感じますがいかがでしょうか。このような街灯の問題・交通安全問題について、今後どのように取り組んでいかれるのかお伺いいたします。あわせて交通安全施設に関する予算措置について過去 5 年の推移もお示してください。

次に、自動体外式除細動器（A E D）の設置促進についてお伺いいたします。

この問題に関しては、平成 15 年第 3 回定例会、平成 16 年第 3 回定例会、平成 17 年第 1 回定例会において質問させていただきました。平成 16 年 7 月、厚生労働省医政局長通知「非医療従事者による自動体外式除細動器（A E D）の使用について」により、救命の現場に居合わせた市民が A E D を用いることは、一般的に反復継続性が認められず、医師法 17 条違反にはならないものと考えられるという見解が示されました。これを受け、本市においては平成 16 年 10 月 12 日付で消防局から各局・区長、事業管理者へ、所管する施設のうち多くの市民が利用する施設等への設置促進について予算措置等も含めてご配慮ください、との通達をされたところです。消防局の調べによりますと、平成 17 年 8 月末日現在、市立中学校・高等学校・養護学校、区役所・総合支所、仙台市体育館等の市有施設に合計 144 台、平成 18 年 12 月現在では 165 台の A E D が設置されました。「全市民救急技術取得都市」を目指そうと言及した前藤井市長と、それに呼応した消防局の推進に心から敬意を表したいと思います。といいますのも、先般、仙台市地下鉄駅構内で心肺停止状態となり、A E D を利用して命を救った事例が発生しております。そこで、今後の取り組みについてですが、現在、消防局が窓口として行っておりますが、各局・区長、事業管理者任せであり、それぞれの予算措置ということもあり、推進にばらつきが出るのではないかと危惧するものです。市の施設という範囲、予算措置について全体計画をきちんとたて、今後取り組むべきと考えますがいかがでしょうか。また、本市ではまだ導入されていない「小児用 A E D」がございます。本体はそのまま、パッド部分を小児用に変えればよいとのことですが、この導入についてもあわせてお伺いいたしま

す。

次に、「頑張る地方応援プログラム」について伺います。

これは、やる気のある地方が自由に独自の施策を展開することにより、「魅力ある地方」に生まれ変わるよう、地方独自のプロジェクトを自ら考え、前向きに取り組む地方公共団体に対し、地方交付税等の支援措置を講じるものです。支援措置として、1市町村につき、単年度3000万円とし、3年間まで措置するというもので、申請するだけで3000万ですから、大いに活用するべきではないかと思います。この「地方応援プログラム」についてはどのように考えているのか伺います。

国から言われるまでもなく本市として様々な取り組みを行ってきているわけで、「自らの創意と主体的な変革を通じて、時代が課す試練を乗り越え、自らの未来を創造していかなければならない」と、梅原市長も施政方針の冒頭で述べていらっしゃる、認識を同じくするものです。さらに、「仙台には限りない可能性が存在しているものと信じています。」とも言われております。そこで、4点ご提案させていただきます。

1点目は、本市シティーセールス誌である「仙台NEW」（読み方）で取り上げられていた貞山堀に着目してみたいかがでしょうか。わが会派でも視察し、こんなすばらしい景色が仙台にあるのかとの思いを強くしました。ヨーロッパのようだと言っている人もいました。貞山堀は、伊達政宗の号「貞山」にちなんで名付けられたもので、「貞山運河」とも呼ばれており、阿武隈川から北上川まで、46.4キロメートルにおよぶ日本一の運河であります。日本一というものはそうそうあるものではありません。市民共同で整備・利活用していくことは、仙台の魅力に大いに貢献していくものと考えますがいかがでしょうか。

2点目は、本市西部地域について、私は平成15年第2回定例会・第4回定例会、平成16年第3回定例会と3度にわたり「道の駅」設置の提案をさせていただいておりますが、道の駅ではなく、作並地区の観光施設を整備すると示されております。約3600平方メートルの敷地に、計画としては核となる施設が延べ400平方メートルの木造平屋建てがあり、駐車場が約20台とのことですが、さしずめミニミニ道の駅といえ、地域振興という観点では大きな前進であり、今後、見守り更なる発展を期待いたします。さて、本来道の駅は国土交通省の補助事業であり最近では災害避難拠点としての機能が注目されているとのことですが、道路の休憩施設、付帯施設がまずあり、それを利用して地域振興・情報発信を行うものと考えます。道の駅の質問をすると経済局が今まで答弁をされてきましたが、違うのではないかと思います。道路交通の観点から言うと建設局なり、都市整備局が中心となりスタートし、中身の問題として経済局が絡むのではないかと考えますが、いかがでしょうか。国道48号線作並地域には相生橋のところが地元の方から魔のS字カーブといわれております。直轄国道であり関係ないと言われるかもしれませんが、本市にとっての重要幹線道路であります。道路整備とあわせ、「道の駅」設置をあらためてご提案いたしますが、ご所見をお伺いいたします。

3点目は、今後の仙台の位置づけといいますか、現在東京仙台間は新幹線で最速1時間36分です。将来的に1時間ちょっとで行き来できるようになると思います。そうしますと東京近郊のベッドタウンと変

わらない時間的距離になるわけです。仙台市内に住み、働いている我々にはあまり感じないことですが、東京出身、また西日本出身の方で東京にお住まいの方はこのことがあまりわかっていないと思います。東北は遠い、寒いといったイメージが相変わらずあり、来訪し初めて、本当に杜の都仙台だ。きれいな街並みで食べ物おいしい。自然がすばらしい。人情がある。といった感想をもたれ、会社関係の方もリタイヤしたら老後は仙台で暮らしたいといったお声を聞きます。各自治体も歳入アップ策のため、団塊世代の取り込みである定住策等を検討し、実施しているところもあります。私は、定住というより、東京との時間的距離の近さを考え、別荘感覚で仙台を見ていただき誘導施策を考えてみてはと思うわけです。いわゆる仙台市をセカンドハウスとする考えです。ターゲットを団塊世代富裕層におき、仙台に住居を購入していただき、その際固定資産税の軽減をすとか、仙台を拠点として、季節の変わり目等好きな時期に仙台に滞在し東北6県を見て歩き、おいしいものを食べ、各種スポーツも仙台なら車で30分圏内のできることを、単に住むだけでなく、健康寿命をのばし楽しい人生を送ることなど、大いに仙台をPRしてみたいかと考えます。ご所見をお伺いいたします。

4点目は、JR 仙台駅の問題について市長のお考えをお聞きしたいと思います。

百万都市・仙台の表玄関というまでも無く JR 仙台駅であります。周辺の自治体の住民の利用を考えますと、その表玄関としての重要性は図り知れないものがあります。

ところで、JR 仙台駅にはなぜ東側に改札口がないのでしょうか。仙台市民の税金を使って駅広を設けました。バスやタクシーなどで東口に到着した市民は南側か北側の通路を使って西側の改札口へ回らなければなりません。東京駅の丸の内、八重洲の改札口は有名ですが、福岡駅、広島駅、札幌駅など地方の主要都市の JR 駅には線路を挟んだ両方に改札口があります。

百万都市・仙台、東北地方の中心都市などと叫んでみても、実態は東口もない田舎の駅となんら変わりありません。しかも仙台駅の東には駅東第一区画整理事業に引き続き現在、急ピッチで進められています駅東第二区画整理事業により、大きく変貌を遂げています。仙台市民の利便性を考えれば、JR 仙台駅の東側に改札口を設置すべきであると考えますが、市長のお考えと JR 側への働きかけをやる意思がどうか、お尋ねいたします。

最後に、施政方針についてお伺いいたします。私は、今回の施政方針については大変に期待をしておりました。期待どおりのところもありましたが、最大の関心であった歳入対策について具体的に見えてこなかった点であります。昨年の施政方針では、市長の精神性、熱意が感じられ、歳入アップの重要性についても充分ご認識され、APECの仙台誘致等、具体的に述べられ、さらにその仕組みづくりへの取り組みについても記者会見で言及されておりました。都市間競争といわれる現在、歳入アップへの取り組みに成功したところが、生き残っていくのではないかと私は考えるもので、市長のご認識も同じだと思います。しかしながら、今回の施政方針は、事業の羅列というか現状課題の対処、場当たりの印象がまず感じられ、冒頭質問させていただきましたが、安全安心対策も市民感情と離れているのではないかと危惧するものです。歳入アップ対策について、一端をご提案させていただきましたが、市長のご所見をお伺いいたします。施政方針の結びの中で言われている、「市民の皆様の声に真摯に耳を傾け、満足度の高いサービスを提供できるよう」との言葉どおりになることをご期待し、一般質問を終わります。

ご静聴誠にありがとうございました。